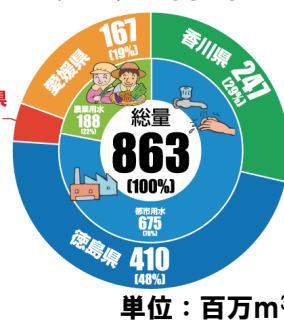


早明浦ダムだよ

早明浦ダム
ホームページ

↑スマホはこちらから



高知分水の紹介

高知分水は、早明浦ダムを中核とした「吉野川総合開発計画」の一環として、吉野川水系・瀬戸川及び平石川の流水を鏡ダム(高知県管理)に導水し、高知市の水道用水及び高知県の工業用水を確保するとともに、天神発電所(四国電力)を経由して導水することによって発電を行っています。

吉野川は、その源を高知県吾川郡の瓶ヶ森に発して、早明浦ダムを下り、嶺北地域をとり、徳島県へ流れています。高知市方面には流れていないため、吉野川の水を利用するためには、高知分水が必要でした。

このように早明浦ダムの水は、吉野川流域外の地域でも、分水施設により導水することで、四国4県で水が利用されており、「四国のいち」とも称されています。



高知市で使われている水の約1/3が吉野川(早明浦ダム)の水です。
早明浦ダムでは、高知分水を通じて鏡ダムへ年間約3,900万m³の水を送っています。

さめうら湖面利用の状況

さめうら湖は、ボートでの釣りや、SUP、カヌーなど湖面利用が盛んに行われています。

また、大川村では、小金滝などの大川村の絶景や歴史をガイド付きで巡る「さめうらダム遊覧船」が運航されています。



カヌー



さめうらダム遊覧船



SUP

さめうら湖の利用については、重要な水源であるとともに、多くの人や船が安全・快適に利用いただくため、ダム管理者や自治体等関係機関で構成する「さめうら湖協議会」において湖面利用ルール等を取り決めており、その取り決めに基づいて、湖面利用団体が利用者の管理や利用ルールの周知を行っています。

ダム施設の維持管理とダム定期検査

ダム施設については、日常管理における巡視・点検と中長期的な観点からの点検・検査等を組み合わせたPDCAサイクルにより維持管理を行うことが重要です。

ダム定期検査は、ダム施設及び貯水池が適切に維持管理され、良好な状態に維持されているか、また、流水管理が適正に行われているか確認するため、その状態について、池田総合管理所早明浦ダム・高知分水管理所以外の第三者の視点から定期的に検査するものです。

今年、早明浦ダムでは、3年毎のダム定期検査を受け、これまでの維持管理状況等の確認を受けるとともに、検査員の意見、助言を頂きました。

今後によりよい管理に向けて、引き続き、適切な維持管理等に努めていきます。



★ 早明浦ダム再生事業 工事進捗状況報告(2) ★

「安全祈願並びに現地見学会」の開催の報告

早明浦ダム再生事業では、10月12日、絶好の秋晴れの下、長年にわたって効果を発揮している堤体^{あな}に孔を開ける前に工事の安全を願って「安全祈願」が執り行われました。

当日は、土佐町長、本山町長、大豊町長、大川村長をはじめ、高知県議会副議長、町村議会議長、ダム近隣の地区長（土佐町、本山町）、関係機関の代表のみなさまにご臨席を賜り、執り行われました。

また、11月からは本格的に堤体削孔^{ていたいさくこう}を行うこととなりますので、安全祈願を執り行った後、ご参加いただいた皆様には「現地見学会」を開催し、今後の工事がどのように進んでいくのかなど直接現地を見ながらご確認いただきました。引き続き安全を第一に、工事を行ってまいります。



安全祈願の状況

【増設洪水吐き工事】

現在、堤体^{ていたい}の下流側では、自由断面掘削機^{じゆう だんめん くつさくき}により、堤体^{あな}に孔を開ける作業を行っています。

自由断面掘削機とは、機械の先に付いているドリルが回転すると共に上下左右に自由に可動することで自由な形状の孔を削る事ができます。また、堤体コンクリートをドリルで削りながら奥へ進んで孔を開けていきます。

孔の大きさは一辺が6m×6mで長さ40mとなり、この孔の中に直径4.8mの鋼製の放流管を設置していきます。



【上流仮締切設備工事】

現在、堤体^{ていたい}の上流側では、工事中にダムの水が下流に流れないようにする蓋^{ひたい}（扉体という）を潜水作業により設置しています。扉体は、底面をふさいで水が入らないようにする等の役割の底蓋^{そこふた}から設置を始めます。

なお、扉体の高さは53mになりこの形式では国内最高の高さになります。

